

*Untilの主節と従属節中の語彙・文法的アスペクトに関する一考察 —untilと進行形の共起を中心に—

内木場 努

A Study of Lexical and Grammatical Aspects in the Main Clause and the Subordinate Clause of *Until* — With Special Reference to the Progressive in Both Clauses

Tsutomu UCHIKIBA

E-mail: uchikiba@edu.toyama-u.ac.jp

キーワード : State, Activity, Accomplishment, Achievement, Telic, Atelic, Telicity, Bounded, Unbounded, Lexical Conceptual Structure

0. はじめに

この論文ではuntil節の中で進行形が可能かどうかを中心に考察する。そして進行形が可能な場合、話し手はどのようにその進行形で表された状況を捉えているかを考究する。

Kittredge (1969) はuntil節は「完結的」でなければならぬので、until節には進行形は不可とする。¹ 次の2文を参照。

- (1) a. Alex danced *until the music stopped*.
b. ?*Alex danced *until the music was stopping*.

ただし、次の2文は進行形が使われているが、例外的に容認可能であると述べている。

- (2) a. John kept playing poker *until he was winning*.
b. John didn't come *until the party was breaking up*.

例文(2a)はJohn kept playing poker until he began winning. のような解釈が与えられると容認可能であるという。他方(2b)の進行形も容認可能であるが、なぜ容認可能になるのかは説明が困難だとし、代りに次のような表現のほうが好まれるとしている。

- (3) John didn't come *until* after the party started breaking up.

この論文ではKittredge(1969)が例外とする(2a, b)の文(さらに(1b)の文)は決して例外ではないことを手元の事例で検証する。

Kittredge(1969)の主張に従うならば、進行形は[imperfective] (「非完結的」)なものであるためuntil節には不可または不適切となるはずである。しかし、彼の主張とは反対に、次のようにuntil節に進行形が用いられた事例が少なからず存在する。

- (4) But those were the first and last meteorites found *until the six week season was ending and the party was preparing to leave Antarctica*. —BNC
(5) Helen Cooper waited *until they were having their coffee*. —S. Sheldon, *Rage of Angels*
(6) Mrs. Robinson reached up to put one of her hands on his sleeve. Then she stood slowly *until she was facing him*. —C. Webb, *The Graduate*

例文(4)では瞬間動詞 (achievement verb) のendと、活動動詞 (activity verb) のprepareの進行形が使われている。例文(5)では活動動詞のhave (=drink) の進行形になっている。また、例文(6)では状態動詞(状態的意味を持つ動詞)のfaceが進行形で用いられている。

このような進行形はどのような要因によって生起可能なのであろうか。これらの問題を解決する手掛かりはuntilの本来的な機能の再吟味にある。そして、untilの機能を確認して初めてuntil節の中で用いられる進行形は決して例外ではなく、しかるべき要因によって動機づけられた言語形式であることが解明できる。

1. untilの語彙文法的機能と主節のアスペクト制約

本節では、まずuntilの機能を確認しておきたい。時間関係を表すuntilは up to the time (when) という意味であるので、主節の事態に時間的限定・境界を付与する役目を担う。この時間的限定という機能は言語学の領域では [bounded] (「有界的」) と呼ばれる。なお、時間的限定は空間的限定と対比して考えると理解しやすい。たとえば、John walked as far as the station. の文では歩いた距離の範囲が駅までであったという意味であるので、as far as the station はwalkedを範囲限定していることになる。動詞は移動動詞であり語彙アスペクトは[atelic] であるが、文全体は範囲限定されているので [bounded] である。これに対し、John walked to the station. の文では到着点を示す前置詞のto

が使われていることから終結点 (endpoint) が内在的に含まれていることになり、アスペクトは [telic] (「終結的」「完結的」) である。また、過去形で表されたこの文は終結点に到達したことを意味するので [bounded] ということになる。²

さて、as far as が空間的範囲を限定するのに対して、untilは主節の事態を時間的に限定する働きをすることを確認したので、次にuntilの主節のアスペクトを見てみよう。

主節の事態は「継続」というアスペクト特性を持つものに限定される。この「継続」というアスペクト特性を [+durative] で表すと、主節の語彙アスペクト制約は次のようになる。

- (7) 主節の語彙アスペクト制約：主節は [+durative] でなければならない。

この [+durative] という特性はVendler (1967) のよく知られた述語分類では State, Activity, Accomplishment に共通する特性である。しかし、Achievementは [-durative] であるのでuntilの主節には用いられない。³

- (8) *We noticed the bat until it took off.
—Heinämäki (1978)

なお、Accomplishmentは [+durative] ではあるが、untilの主節に用いることはできない。⁴この理由はAccomplishmentは内在的に終結点 (endpoint) が組み込まれているので、すなわち [telic] であるので、untilによってさらに時間的限定を加えることはできないからだと考えられる。

- (9) a. *John built a house until he ran out of bricks.
—Heinämäki (1978)
b. *John painted a picture until noon.
—Moltmann (1991)

以上の点をまとめると、(7)の語彙アスペクト制約は次のように修正する必要がある。

- (10) 主節の語彙アスペクト制約：主節は [+durative] かつ [atelic] でなければならない。

ちなみに、次のように開始点を表すbeginやstartの相動詞が使われている場合にはAchievementではあるが、開始後の「行為の継続」をuntilは修飾していると解釈される。

- (11) It was Ron Peterson, smiling down at her, and Catherine's heart began to pound until it began to burst out of her chest.
—S. Sheldon, *The Other Side of Midnight*.
(12) I started dreaming again until I heard footsteps outside.
—BNC

さらに、次のような変化動詞 (become) の場合にも変化後の状態 (be manager), (be asleep) をuntilは修飾している。

- (13) Eventually he became manager at the Alton branch until the store closed in 1965.
—BNC

- (14) After dinner and a movie they both fell asleep until the steward announced it was time to prepare for landing.

—J. Collins, *Vendetta: Lucky's Revenge*

また、位置変化や状態変化を表すAccomplishmentの場合にも同様に変化後の状態をuntilは修飾すると解釈される。換言すると、CAUSE [BECOME [STATE]] で示されるAccomplishmentの概念構造の [STATE] の部分をuntilは修飾している。次の例文(15)では (be back on the goddamn stand) を、(16)では (be married) の [STATE] の部分をそれぞれ修飾している。

- (15) Claudia ran toward the bench. "Then put me back on the goddamn stand until I convince you," she pleaded.
—C. Reilly, *Nuts*
(16) "I know it's a terrible thing to ask, but—would you be willing to marry me until—until my mother dies, and then give me a divorce?"
—S. Sheldon, *A Stranger in the Mirror*

ところで、次のように主節に進行形ではなく現在分詞が用いられ継続状況を表すことがある。(17)の例ではwatchingと現在分詞となっているが、これは進行相を表しておらず、sat and watched him until... の意でactivityを表している。(18)のwavingも同様にactivityを表す。

- (17) She didn't move from the bed but sat watching him until finally Benjamin turned around and walked to the door.
—C. Webb, *The Graduate*
(18) Frank stood waving on the platform until he could no longer see her at the window.
—K. Harper, *Falling in Love*

さらに、keepやcontinueのような継続を表す相動詞も可能である。いずれの場合もアスペクトは [+durative] である。

- (19) I kept shouting until my voice was hoarse and a mere squeak in my throat.
—H. Robbins, *A Stone for Danny Fisher*
(20) He bellowed with pain and rage, and sitting astride, continued punching her savagely in the face until she lay still.
—BNC

次に、主節に進行形が可能かどうかについて考えてみよう。untilの主節に進行形が用いられた文の容認可能性については言語学者の間でも判断に揺れが見られる。Heinämäki (1978) は次のようにuntilの主節に進行形は用いられないとする。

- (21) a. *John was reading the book until we came.
cf. John read the book until we came.
b. *Mike was playing tennis until his toes hurt.
cf. Mike played tennis until his toes hurt.

また、Kittredge (1969) は、主節に進行形が用いられた文は不自然であると判断している。⁵

(22) ?John was waiting until Mary arrived.
これに対して、Declerck (1981) は容認する立場をとっている。

(23) John was watching television until midnight.
cf. John watched television until midnight.

上記の文献にはなぜ進行形が容認不可なのか、不自然なのか、また容認可能なのか、その理由は示されていない。そこで、このような判断の揺れの原因を、以下2つの観点から考えてみよう。

まず、進行形の有する文法的アスペクト特性の1つである [imperfective] に注目してみよう。

進行形は状況 (situation) を「未完結 (imperfective)」として、つまり、[unbounded] として表示する表現形式である [cf. Declerck (1991:157)]。したがって、進行形によって主節の状況を [unbounded] にする文法的アスペクト機能と、until によって主節の状況を [bounded] にするアスペクト機能とが衝突してしまうので、結果的に、上の(21)や(22)は容認不可あるいは不自然と判断されるのではないかと推測できる。このアスペクト衝突という考え方はDeclerck (1991) が進行形と for three hours のような継続時間副詞句との共起可能性を論じる際に与えた説明を基にしている。以下、この考え方をアスペクト衝突説と呼んでおく。次の2文を比較してみよう。

(24) a. They talked about the accident for two hours.
b. *They were talking about the accident for two hours. —Declerck (1991:182)

for 時間副詞句は時間的限定を与えるので [bounded] の機能を持つ。したがって (24b) のように [unbounded] である進行形と for 時間副詞句を用いた文は非文法的になる。⁶ この線にそって考えると、次例の worked を was working にすることはできないことも自動的に説明できる。

(25) I used to work with him in my mother's shop—
he worked there for twenty-five years, until he died a few years ago. —BNC

しかし、進行形が [unbounded] であるので until とは共起できないという理由だけでは十分な説明が与えられたことにはならない。なぜなら、単純形の場合でも、たとえば上例 (21b) の Mike played tennis until his toe hurt. の文では until 以下を除いた John played tennis. の部分は [unbounded] であるからである。ただし、この問題点は [(un) boundedness] の程度 (degree) の違いを考慮すれば解決される。単純形と進行形はともに [unbounded] であるが、進行形のほうがより [unbounded] である。さらに for 時間副詞句と until を [boundedness] の程度で比較してみると、for 時間副詞句はその継続期間の初めと終りが、つまり期間の両端 (左端と右端の両方) が [bounded] されているが、until では期間の終りだけが、つまり右端だけが [bounded] されているので、for 時間副詞句のほうが until よりもより [bounded] である。このように考えると、for 時間副詞句は進行形とアスペクトが激しく衝突するので完全に非文法的になるが、until

は左端が [unbounded] なので、そのぶん進行形と共に用いてもさほど容認度は下がらないと考えられる。つまり、until は主節の継続時間の右端だけを [bounded] するので、左端の [unbounded] の部分に [unbounded] な進行形が用いられる可能性があるということになる。

以上がアスペクト衝突説の考え方であるが、次にもう1つの観点から until の主節の進行形について考えてみよう。アスペクト衝突説では進行形の [imperfective] というアスペクト特性に注目した考え方であるが、ここでは進行形の有する [+durative] というアスペクト特性に着目してみよう。進行形を用いる場合には必ず「時間幅 (duration)」が保証されなければならない。語彙アスペクトのレベルで Activity (および Accomplishment) の動詞 (句) は進行形にすると時間幅が縮小される。また、Achievement の動詞では、進行形にすると時間幅が拡大され、終点までの前段階を表す近接未来の用法や反復の用法になる [cf. Leech (1985)]。このように進行形はいずれの場合にも「時間幅」を持つので、つねに [+durative] である。この点を踏まえて until の主節のアスペクト制約を見てみると、主節は [+durative] でなければならないというアスペクト制約を進行形は満たしていることになる。ただし、その場合、[+durative] な Activity の動詞では単純形との違いが明らかにされなければならない。そこで、単純形ではなく進行形を用いる場合には、単純形では伝えられない進行形特有の意味が表されると考えることができる。換言すると、進行形特有の意味を表す必要が特に見当たらないような場合には単純形のほうが一般的であるということになる。

以下、次のように until の主節に進行形が用いられた実例を検討してみよう。

- (26) Everyone saw that the horse was galloping well until there was a clean break of the leg. —BNC
- (27) Frankie, at 64, was working right up until he was taken ill. —BNC
- (28) Gary was working for IBM until 1969, when he got a job at Sperry. —LDCE (3rd)
- (29) I was dancing with the officers until two o'clock this morning! —BNC
- (30) Until the last minute I was revising our document, often making significant alternations, and ringing up members of the Group for this assent. —BNC
- (31) He had known Eliot since the First World War, and at that time and until the poet's death in 1965, he was seeing him frequently. —BNC
- (32) He was regarding her with unnerving concentration, until she felt she wanted to duck down under the water, fearing her swimsuit was see-through or something. —BNC
- (33) William Tidbury stated that on 11 December he had been working until late at a local farm (this had already been borne out by the farmer). —BNC

これらの進行形は行為・過程が until で示される時点まで

継続していたことを表しているが、単純形とは異なり、主語の行為・活動そのものが焦点化され、ときには主観的にまたときには強制的に表現されている。(26)では骨折するまでは競争馬が順調に疾走していたことが、(27)ではFrankieが病気になるまでは元気に働いていたことが主観的に描写されている。この場合、話し手(書き手)は自らの視点を主語のthe horse, Frankieに置いて、主語に共感的にその行為・活動を描写している。until以下の出来事によってそれまでの順調な主語の行為・活動が中断され、話し手(書き手)は無念さを覚えている。(28)ではGaryがIBMに一時的期間働いていたことが表され、進行形の持つ「一時性」の意味が反映されている。(29)では役人たちと朝の2時まで踊っていたことが感嘆的に述べられている。朝の2時まで踊るという特別の体験が私にとっては印象的であったのである。(30)では議員秘書の私が原稿手渡しの寸前まで原稿の校正や手直し作業、さらに同僚議員への同意確認の電話などに懸命に取り組んでいた様子がありありと述べられている。行為反復を表す進行形である。また、(31)は瞬間動詞のseeが進行形として使われているので反復の意味である。(32)は、彼が彼女(の水着姿)に視線を一点集中させまじまじと見つめ続けたので彼女は不安になり水中に身を隠したい気持ちに駆られたという意味である。書き手は彼女の視点に身を置き、彼の執拗な視線を浴びせていることに批判的な感情を抱いている。最後に(33)では、アリバイを主張しているところに進行形が使われている。進行形の「強調用法」がうまく活かされている。

これらの例文ではまさに進行形そのものの意味が表わされているのである。具体的には「主観性」「一時性」「反復」「強調」「生き生きとした生彩」など意味である[cf. 安藤(1983)]。単純形の場合は状況を過去の事実として客観的に述べた捉え方となるので、進行形の持つこれらの多彩な意味合いは伝えられない。つまり、until節の進行形は上で述べたさまざまな話し手の表現意図を表すために選択された表現形式であると言える。⁷

これらの点を踏まえた上で、(21)、(22)、(23)の例を検討してみよう。(21)、(22)では特定の時点まで「読書した」「テニスをした」「待った」ことが客観的に述べられているので、進行形にする動機づけが存在しない。(23)では、How long [How late] did John watch television?に対する答えとしては単純形でJohn watched television until midnight.と答えるのが自然となろう。一方、What was John doing until midnight?に対する答えとしてはJohn was watching television until midnight?が自然となる。そしてこの場合には、コンテキストによっては「真夜中までテレビを観ていた」ことに対して話し手の批判的態度が表されることもある。

以上の考察から、主節は[+durative]でかつ[atelic]という語彙アスペクト制約を持つことが明らかになった。さらに、進行形は[+durative]であるのでこのアスペクト制約を満たすが、その場合、単に「継続」の意味を表すのではなく、上記の進行形独自のさまざまな意味を表すことがわかった。

2. until節の進行形について

前節では、untilの機能は主節を時間的に限定することであることを確認した。このことはuntil節は境界点を表す事態でなければならないことを意味する。そして、その境界点

としては終結点が代表的である。したがって、until節内には明確なendpointを持つ動詞(句)、つまり[telic]の特性を持つ動詞句が来る場合が一般的となる。典型的にはaccomplishmentとachievementの場合である。⁸

- (34) I earned the money for the family, *until he died.* —BNC
 (35) She didn't stop running *until she reached Grand Central Station.* —J. Collins, *Love Killers*
 (36) She resolved to drink no more champagne *until she got home.* —R. Jaffe, *Class Reunion*
 (37) They talked *until the coffee shop closed*, and by that time they were old friends.
 —S. Sheldon, *A Stranger in the Mirror*

ここで、境界点と終結点の区別を明確にしておく必要がある。境界点は時間軸上の明確な点であればよく、時間軸上に任意に指定される点である。他方、終結点(endpoint)は境界点の最終点であり唯一無二に指定される点である。つまり、境界点 \geq 終結点という包含関係が成り立つ。喩えて言えば、境界点は「各駅停車」の「停車駅」であり、終結点は「終着駅」である。

このようにuntil節が時間軸上に任意に指定される境界点を表すことは、次のようにalmostやnearlyと共に起した文がuntil節に可能であることで確かめられる。⁹

- (38) She didn't fall asleep *until it was nearly light*, and then she overslept.
 —R. Jaffe, *Five Women*
 (39) Serfaty suffered terrible injuries: they broke his body *until he almost died*, but they could not break his spirit. —BNC

境界点が任意に指定される点であるということは話し手は主観的に事態を境界化することが出来ることを意味する。この視点が以下の議論で決定的に重要な意味を持つ。

以下、次のように進行形がuntil節に用いられている場合を検討してみよう。冒頭で挙げた例文(2a, b)、(4)、(5)、(6)を再録する。

- (40) a. John kept playing poker *until he was winning.*
 b. John didn't come *until the party was breaking up.* —Kittredge (1969)
 (41) But those were the first and last meteorites found *until the six week season was ending and the party was preparing to leave Antarctica.* —BNC
 (42) Helen Cooper waited *until they were having their coffee.* —S. Sheldon, *Rage of Angels*
 (43) Mrs. Robinson reached up to put one of her hands on his sleeve. Then she stood slowly *until she was facing him.* —C. Webb, *The Graduate*

便宜上、これらの例のuntil節に生じている進行形を3つのタイプに分けて検討してみよう。まず(40a, b)(41)のタイプであるが、この進行形では瞬間動詞が使われているので近接未来を表している。この場合、endpointに近接する

時点が表されているが、終結点は表していないので、文法的アスペクトとしては [imperfective]、すなわち、本稿での [unbounded] に相当するので、until の [bounded] という機能と一見矛盾しているように思われる。しかし、ここで注意すべき点は、until は進行形の表す局面を境界化 (bounding) することは可能であるということである。この境界化というのは局面化、あるいは段階化と言い換えてもよい。(40a, b) や (41) の例では、endpoint に近接している段階や局面が「点的に捉えられているわけである。(40a) ではポーカで勝ちかけている段階が、(40b) ではパーティーが終りかけている段階がこれらの進行形によって表されている。勝利を収めること、パーティーがお開きになることが endpoint であるわけだが、この進行形はその endpoint に近接した段階を指している。このように endpoint そのものではないが、そこに近い段階が言わば「境界点」を拡張した「局面」「段階」として認識されているわけである。

このような考え方を進めていくと、冒頭で挙げた (1b) の例文の場合も瞬間動詞の stop が使われているので、音楽が止まりかけている段階までアレックスは踊り続けたという解釈が可能となるような文脈では容認可能な文となる。

次にいくつかこのタイプの進行形が用いられている例を挙げてみる。

- (44) She had the dreadful thought that once her hands plunged into the foul greasiness, she would feel reaching, grasping hands under the surface, clutching at her, pulling her down *until she was drowning*. —BNC
- (45) She did not understand what he had meant *until they were getting into the car*. —BNC
- (46) After that I forgot about seeing Tavett and didn't remember *until I was leaving the building*. —BNC
- (47) Belle devised the trick of waiting by a food stall at a halt *until the train was just pulling out again*. —BNC
- (48) We saw each other a lot, and we were very close, but we didn't live together actually *until he was dying*. I took three months off work and took care of him. —D. Steel, *The Ranch* [衣笠(2001)]

なお、次の approach ような場合も同様の説明が可能である。approach は go near の意味であるから、過程動詞であるが、進行形になると到達点に近づいていることを表す。この例では「ハンナが50歳近くになるうとしている頃まで」という意味を表す。

- (49) *Until she was approaching her half century* Hannah was probably the least traveled person anywhere in the northern countries. —BNC

以上は until 節に瞬間動詞の進行形が用いられ、until が進行形の表す「前段階」を境界化の基準にしている場合であったが、次に瞬間動詞以外の動詞が用いられる事例を検討してみよう。

- (50) She cooked dinner for Ken. He waited *until*

they were having dessert before he brought up the subject. "I don't want to pry," he said, "but shouldn't whoever the proud papa is be doing something—?" —S. Sheldon, *Rage of Angels*

彼女 (ジェニファー) はある男の子供を身ごもっている。同僚のケンはその彼女のことを気遣い、相手の男は彼女に何らかの (経済的) 援助をすべきではないかと助言しようと思っている。彼女の料理を食べながらケンはその話題を切り出すチャンスを伺っている。そしてデザートが出される。ケンはデザートを食べながら思い切ってその話題を持ち出すという場面である。ここではケンがその話題を持ち出したのはデザートを食べている最中であり、その前でもその後でもないことに注意すべきである。この点で、上で扱った瞬間動詞の場合とは異なる。活動動詞 (have) の進行形になっているので進行中のプロセスを表している。ここで注目したいのは dessert である。スープ、サラダ、メインディッシュ、デザート、コーヒーのように順番に出される dinner であるので dessert はその dinner の一段階 (あるいは最終段階) である。この例では、デザートを食べている段階がクローズアップされている。つまり、デザートを食べている段階が時間的にひとまとまりとして捉えられている。ひとまとまりにくられた段階全体がさらに時間上のひとつの「局面」として捉え直されている。ここでは行為のプロセスが境界化の基準とされていると考えられる。

次の例では rain の進行形が使われている。

- (51) "You used a sawed-off shotgun under a raincoat?"
"That's right. I waited *until it was raining*, and then hit a bank."
—S. Sheldon, *Rage of Angels*

銀行強盗をするのに銃身の短い散弾銃を使う計画を立てていた私はその散弾銃をレインコートの中に隠す必要があった。レインコートを着るためには雨の日でなくては不自然である。私は雨の日になるまで犯行の機会を待って、そして雨の日が来る。雨の中レインコートに散弾銃を忍ばせて犯行を実施する。ここでも雨が降っている段階が決定的に重要である。雨が降っているそのプロセスが時間的にひとまとまりの段階として捉えられている。

この2例のように活動動詞の進行形の場合には、その活動が開始された後の動作の継続状態が表されていると考えられる。その動作の継続状態に「変化」する述語は言語化 (encoding) されていないわけである。つまり、「変化」の段階を飛び越えて変化後の継続状態だけが言語化されているわけである。このような現象が可能になるのは until が本来的に時間的「境界」を指定するという機能を備えているからである。

次のように until 節に活動動詞の進行形が使われている例はかなり多い。いずれの場合も変化後の進行中の行為や出来事を境界化、段階化した捉え方になっている。次例を参照されたい。

- (52) She hadn't realized *until she was bumping along the road away from the dock* that she'd been shaking like an aspen leaf. —BNC
- (53) It was not *until he was climbing the stairs*

- in front of her that Tug realized suddenly, cold and hard, why her eyes had flickered before she answered. —BNC
- (54) That night, the penguin waited *until the seal was sleeping*, singing gently through her beautiful whiskers. —BNC
- (55) It wasn't *until she was stumbling from the room* that she saw her mother. —BNC
- (56) It was not *until they were coming back*, with the required tins of paint and thick brushes amongst the rest of the shopping that anything really unpleasant took place. —BNC
- (57) I wait *until my husband's doing the late shift*, and I wait until the children have gone to bed, and I sit down in front of the television. —BNC
- (58) Then I went to work in a five and ten, and gradually worked my way up *until I was managing a general store*. —BNC
- (59) Water regularly at first, *until they are growing and spreading happily*. —BNC
- (60) Now I have been in this business for a long time, and I was at that conference, and I have to say that I have forgotten the resolution *until I was reading things* again in preparing for this talk. —BNC

以上、until節の進行形は、継続中の行為や出来事を境界化することを検証してきた。ちなみにuntilが「結果読み」の場合にも活動動詞の進行形が用いられる。¹⁰ 次例の(61)では、トビーは歌のレッスンを毎日続け、果てには寝ながらにして歌を歌うまでになったということで、このuntil節は「結果」を表している。この場合の進行形も変化後の継続状態を表す。

- (61) Toby rehearsed until every muscle in his body ached, but he burned off five pounds and became trim and hard. He took a singing lesson every day and vocalized *until he was singing in his sleep*. —S. Sheldon, *A Stranger in the Mirror*

次に第3のタイプの進行形について考えてみよう。このタイプの進行形の特徴は用いられる動詞がいずれの場合も状態的意味を持つということである。次例を参照されたい。用いられる動詞はlie, rest, sit, stand, hang, face, confront, cover, touchなどが代表的である。

- (62) He leaned forward *until his head was lying against her shoulder*. —BNC
- (63) Benjamin was sitting at the corner table looking out the window at the grounds of the hotel and didn't see her *until she was standing* directly across the table from him. —C. Webb, *The Graduate*
- (64) As they neared fulfillment, he rolled them slowly sideways *until his body was covering hers*. —BNC
- (65) The performance cannot start *till everyone is*

- sitting down*. —EED
- (66) I'm sure Lucy will agree to stay *until you're feeling stronger*. —BNC
- (67) She stretched out on the narrow bench gazing at the ceiling and he pushed her legs backwards *until her knees were touching her shoulders*. —BNC
- (68) Bend from the waist *until the torso is horizontal, and the arms are hanging straight below*. —BNC
- (69) Hunter took two steps along the sofa *until he was confronting Gayle Miller*, who had just stopped saying something to Brandon. —I. Wallace, *The Celestial Bed*
- (70) Nicola worked backwards on the bed *until she was resting against the wall*; she pulled her knees up and clasped them. —BNC

これらの例文で用いられている動詞は「位置」や「姿勢」または「接触」を表す状態的意味の動詞である。この第3のタイプは、動作、行為、出来事(変化後の)継続状態を表す第2のタイプとは異種のものである。しかし、第2のタイプと同じように、第3のタイプでも位置「変化」そのものを表す動詞は言語化されていない。第3のタイプの進行形は位置変化後の「結果状態(resultative state)」を表していると考えられる。したがってuntilは変化を飛び越えて変化の結果状態までの時間領域を境界化(bounding)の基準としているということになる。

これらの「位置」「姿勢」を表す動詞が単純形で用いられることもあるが、その場合には位置や姿勢の変化(BECOME)の時点が境界化されている。

- (71) Slowly and with dignity, Tsu Ma climbed the steps *until he stood there at his dead father's side*. —BNC
- (72) As if moved by a key, her own head turned *until she confronted him*. —BNC
- (73) 'I'd never do anything to hurt you,' he added softly, slowly lowering his head *until his mouth touched*. —BNC

3. おわりに

本論文ではuntilと進行形の共起について考察した。最初に、untilは主節の事態に時間的限定・境界を与える語彙文法的機能を持つことを確認した。この機能から主節のアスペクト制約としては、[+durative]と[atelic]という語彙アスペクト特性を提示できることを例証した。また、主節の進行形は[+durative]なのでアスペクト制約を満たすけれども、その場合、進行形独自の意味を表すために用いられる、言わば、有標の表現形式であるので、特にこのような意味合いを表す必要がない場合には用いられず、アスペクト的には同じ[+durative]である行為・過程動詞の単純形が用いられることを述べた。

本論文の中心テーマであるuntil節の進行形は、untilが状況を境界化するという機能を有しているため、進行形で表される事態を話し手が時間的に局面化や段階化している場合に用いられることを検証した。この局面化、段階化されてい

る状況は具体的には終結点に近接する時間帯である場合と、行為・出来事の開始後の進行中のプロセスの場合、そして変化後の結果状態の場合の3つのタイプに分類できることを明らかにした。

終結点は言語表現の要素として内在的に組み込まれたものであるが、境界点は話し手が任意に設定できるので話し手の視点が反映される。主節の事態を時間的に境界づける機能を持つuntilは節内に境界化するための基準点を含むわけだが、事態のどの部分を基準点にするかは話し手の視点に左右される。進行形は文法アスペクト的には[unbounded]である。しかし、until節ではこの[unbounded]な進行形は、境界化するための基準点として時間軸上に位置づけられなければならない。本来[unbounded]な状況を表す進行形はuntil節で用いられると、進行している段階をひとまとまりにくくられ、さらに大きな時間の流れの中の一段階として捉え直されることになる。換言すると、until節の進行形は、「開始(変化)」、「過程(動的継続)」、「終了(変化)」、「結果状態(静的継続)」という時間の流れの中に位置づけられる段階や局面の中から、話し手が基準点として任意に選択した段階や局面における動的状態や静的状態を表すと言えよう。「開始」「終了」では、それらに近接する段階(前段階)を表す進行形が、「過程」では、変化(「開始」)後の動的継続段階を表す進行形が、そして「結果状態」では変化(「終了」)後の静的継続状態を表す進行形がそれぞれuntil節中に用いられていると結論づけられる。

* 本論文ではThe Bank of National Corpus (BNC)から多くの用例を利用させてもらった。ここに記して謝意を表したい。

注

1. 出水(2001)はKittredge(1969)と同じくuntil節は[telic]であるとして論を進めているが、この論法では進行形の場合がうまく説明できないので再考を要する。

2. ある文が[telic/atelic]か[bounded/unbounded]かということに関してまとまった形で論じているのはDepraetere(1995)である。この論文では両者の区別は次のようにまとめられている。終結点が内在的であっても(inherent endpoint)、また意図されるという形であっても(intended endpoint)、状況(situation)に潜在的に組み込まれている場合が[telic]、組み込まれていない場合が[atelic]である。一方、状況が[telic][atelic]のどちらかであるかにかかわらず、時間的な境界に達した場合が[bounded]、達しなかった場合が[unbounded]である。

しかし、[telic]な場合として、終結点が意図された場合を含むという点には賛同できない。たとえば、次例はfor 2 hoursが意図された時間であり、その意図された2時間が経過した時点が終結点として含まれるので[telic]になるという。

(a) Sheila deliberately swam for 2 hours.

一方、次例では、庭で遊んだのが1時間であったということで、1時間が経過した時点が終結点であるので[bounded]なるという。

(b) Judith played in the garden for an hour.

しかし、for 2 hoursのような継続時間副詞句は文の

必須要素ではないので、つまり付加詞であって項(argument)ではないので、telicityには関わらないと考えられる。したがって、(a)(b)の文はいずれもactivityを表し、終結点は内在的に組み込まれていないので[atelic]となる。さらに、両文とも時間副詞句によって時間限定され、かつ過去形で述べられているので[bounded]ということになる。

3. 否定文では「否定の継続」が表されるのでachievement verb, accomplishment verbも用いられる。

(a) We did not notice the bat until it took off.

(b) Claudia did not wake up until the telephone rang. —Heinämäki (1978)

さらに、主節が「反復」を表す場合にも[durative]となり、文全体は[atelic]となる。

(a) Perhaps Gisele was in the bathroom. Liz knocked harder, persistently, until her knuckles hurt. —I. Wallace, *The Miracle*

(b) Both he and his brother jumped up and down on the platform until the train boomed past them. —K. Parker, *Falling in Love*

(c) Mary drew pictures until noon.

—Moltmann(1991)

4. untilが「結果」を表す場合には、主節にaccomplishmentも可能。例文(a)のweed outはaccomplishmentを表す。また例文(b)ではtake two stepsとなっているので[telic]な表現になっている。さらに例文(c)ではthe 90 milesと有界の経路目的語が使われているのでflew the 90 milesはaccomplishmentである。

(a) The roughs are weeded out until only the best remain. —BNC

(b) Hunter took two steps along the sofa until he was confronting Gayle Miller, who had just stopped saying something to Brandon.

—I. Wallace, *The Celestial Bed*

(c) He flew the 90 miles at a height of less than 100 ft, to dodge both Cuban and American radar defences, until he reached his city of Matanzas.

—BNC

5. ちなみに、筆者のインフォーマントの5名は不自然と判断したが、2名は可能と判断した。

6. ただし、for時間副詞句は継続の現在完了形とは共起可能である[Declerck(1991:182)] : We have already been waiting for two hours. この例文のfor two hoursは待ち始めた時から発話時に至るまでに経過した時間を示している。したがって発話時が示されている時間の終点である。しかし、場面、状況は発話時に終結するものとしては表されていない。待つ行為は、発話時を越えて継続しているかもしれないからである。

7. 次のように、近接未来を表す進行形もuntilの主節には可能(インフォーマントに確認済み)。

(a) Jack was winning the race until the last lap.

(b) Maggie was winning the race until Zola tripped her.

8. 本来は状態動詞として用いられる [atelic] の動詞もuntil節では境界化されて [telic] の意味に変換される。

(a) Learn from this experience and use a reliable form of contraception *until* you *want* a baby.

—BNC

(b) In fact at every mealtime I eat *until* I *feel* full.

—BNC

(c) *Until* I *know* why Albie died, I won't know whether Ludo and I are also in danger.

—BNC

(d) They didn't laugh *until* they *were* out of sight.

—BNC

(e) John stayed with them for two years *until* he *had* enough money to own a bus of his own.

—BNC

(f) Days and nights of tears and recriminations followed *until* he finally *understood* that she would never abort their child.

—BNC

(g) As the time wore on, he became more and more furious, *until* he *realized* that was her intention.

—S. Sheldon, *The Other Side of Midnight*

(h) The belt rose and fell, rose and fell *until* it *seemed* as if I had lived forever in this curious world of pain.

—H. Robbins, *A Stone for Danny Fisher*
同様に本来は [atelic] な行為動詞、移動動詞もuntil節では [telic] にアスペクト変換される。

(i) She laughed *until* the tears *streamed* down her face.

—S. Sheldon, *A Stranger in the Mirror*

(j) She picked him up and shook the poor child *until* he *screamed*.

—BNC

(k) My well-worn school shoes were polished *until* they *shone* like glass.

—BNC

9. until節では終結点ではなく境界点が表されることは次のように比較級が使われることから裏づけられる。

(a) "He's had a stroke. I wanted to call you sooner but your father asked me to wait *until* he *was* better."

—S. Sheldon, *The Other Side of Midnight*

(b) "Do I get to hear about it?" "Not *until* I *know* you *better*."

—J. Collins, *Vendetta: Lucky's Revenge*

(c) "No, say nothing yet, not *until* things *become* clearer."

—BNC

10. untilが「結果」の意味で用いられる場合には次のように否定文が続くことがある。

(a) He stood very still for a moment, then his arms tightened around her *until* she *could* hardly breathe.

—H. Robbins, *79 Park Avenue*

(b) I watched the pain grow and grow in their eyes *until* I *couldn't* stand it any longer.

—H. Robbins, *A Stone for Danny Fisher*

池上嘉彦. (2000) 「'Bounded' vs. 'Unbounded' Cross-category Harmony' (21) 『英語青年』12月号, 592-594. 研究社出版.

Declerck, R. (1979) 'Aspect and the bounded/unbounded (telic/atelic) distinction.' *Linguistics* 17, 761-794.

Declerck, R. (1981). 'On the role of progressive aspect in nonfinite perception verb complements.' *Glossa* 15, 83-114.

Declerck, R. (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Kaitakusha.

出水孝則. (2001) 「until節内の動詞句のアスペクトと解釈」『英語語法文法研究第8号』, 141-155.

Depraetere, I. (1995) 'On the necessity of distinguishing between (un) boundedness and (a) telicity.' *Linguistics and Philosophy* 18, 1-19.

Dowty, D. R. (1977) 'Toward a semantic analysis of verb aspect and the English 'imperfective' progressive.' *Linguistics and Philosophy* 1, 45-77.

Heinämaäki, O. (1978) *Semantics of English Temporal Connectives*. Indiana University Linguistics Club.

影山太郎. (1995) 『動詞意味論』くろしお出版.

衣笠忠司. (2001) 「アスペクトと出来事」六甲英語学会 (9月例会) 口頭発表ハンドアウト.

Kittredge, R. I. (1969) 'Tense, aspect, and conjunction: some inter-relations for English.' Ph. D. dissertation. University of Pennsylvania. University Microfilms, Inc.

Leech, G. (1989). *An A-Z of English Grammar & Usage*. Edward Arnold.

Leech, G. (1985). *Meaning and the English Verb (2nd)*. Longman.

Moltmann, F. (1991) 'Measure adverbials.' *Linguistics and Philosophy* 14, 629-660.

Smith, C. S. (1995) *The Parameter of Aspect (2nd)*. Kluwer Academic Publishers.

Tenny, C. L. (1994). *Aspectual Roles and the Syntax-Semantics Interface*. Kluwer Academic Publishers.

内木場 努. (2002) 「Untilと進行形」『英語青年』9月号, 374-375. 研究社出版.

Vendler, Z. (1967) *Linguistics in Philosophy*. Cornell University Press.

参考文献

安藤貞雄. (1983) 『英語教師の文法研究』大修館書店.